

「RAW画像の現像に関する効果的技法」

JTC・舞アートフォト 代表 伊藤晃 itohikaruphoto@gmail.com

1. 今更何故、RAW現像なのか

事始めは当然JPEG



(A,B)

後に、一般論として下記のことは知っていた。しかし、特に私の場合はアメフト、踊りが多いので、データ量が大きく、補正に手間が掛かるのは困る、更新毎に画像が荒れるがその時は元データに戻ればよいとして、RAWでの撮影・現像は行わず終い。

他人のせいにするわけではないが、写真の展示会ではカメラメーカーが当社のカメラの画像はRAW現像する必要はない程キレイと言いつつ（RAW現像が前提と明言しているのはシグマ社のみ）、カメラ雑誌でも同じよう。これを鵜呑みに。何故か、カメラ雑誌にはRAW現像の記事は殆ど無い。

(C)

JPEG	RAW
データのサイズは小さい	データのサイズは、概ねJPEGの3倍
どのアプリでも表示・補正・印刷可能	規格標準が無いので専用アプリが必要
補正しなくても表示もプリントもできる	必ず補正の必要があり面倒
補正し更新する毎に画像が痛む	何度更新してもデータは壊れない。元に戻る。
8ビット。許容範囲が狭い。一々16ビットに	12・14ビット。印刷やWEBは8ビットでもいいのに
撮影時に露出やホワイトバランスに気を遣う必要有り。それらをしっかり決めればよいこと。	露出やホワイトバランスの自由度は高そう
お金は余り掛からない	お金が掛かる（アプリ、HD、メモリーカード）

直接的なきっかけ

カメラ系列を切り替えたときに、そのホワイトバランス（以下、WB）に疑念。

最も困ったのは、照明によってはいくらWBを色温度の調整をしつつ撮影し、Photoshopで補正してもなかなか好みの色味にならない、むしろ好ましくない色味になることが生じてきた。



(D,E,F)

（そもそもWBって何だろう？ 白が白になればいいの？ 18%って本当？）

RAW現像してみると意外にも

さほどにも難しくも面倒ではなかったし、かつ手早く補正できてしまった。
困っていた色味の問題はほぼ解決。



しかも、Photoshopでいうトーンカーブ、レイヤー、マスク処理は全く不要。
Photoshopに無い機能までであった。画像合成しないストレートフォトにはもはやPhotoshopは
不要。こんなことならば何故にもっと早くからRAW現像しなかったのかと悔やむことしきり。

更に意外であったのは

既にRAW撮影・現像は当たり前で、私だけが時代遅れかと思っただが、
プロの一部もアマチュア（一眼レフ保有者）の大半がJPEG撮影であり、RAW現像していないと
いう事実。

独学しようにも適切な解説書が存在しない

あれもできるこれもできるならの機能紹介ならば少しある、あっても読みにくい、分かり
にくい。こうしたいたいからこうするは全く無い。

無いのであれば自分で解説書を作るしかないと考えて「いきなりRAW現像」を執筆した
次第。

2.RAW現像の実際

色温度の変更 → 自由度が高い。数値で処理できるから後々の参考になる。(I)



お肌の色味の調整

(J)



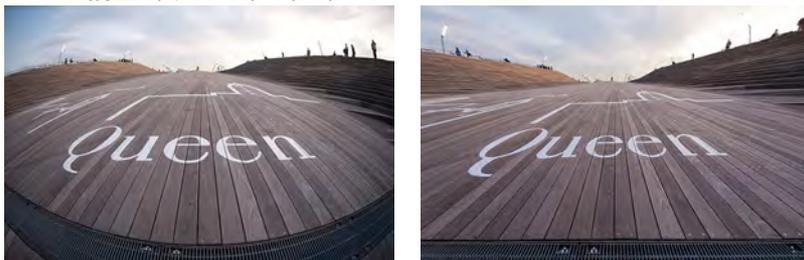
自動ホワイトバランスト → 窮余の一策としては有効。及びトリミングの例 (K)



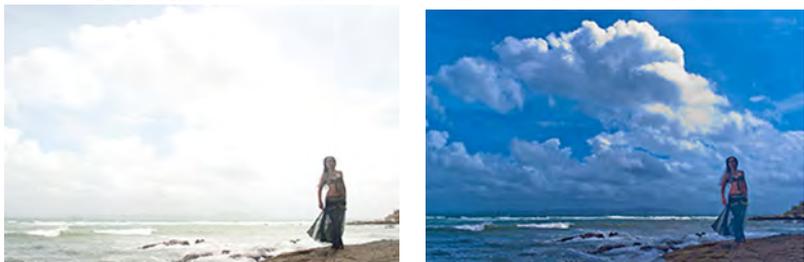
レンズ補正 (色ズレ・色収差) (L)



レンズ補正 (ゆがみ) (M)



白飛び写真の救済 → 露出は2~3段なら平気。ポツ写真がよみがえる (N)



露出不足写真の救済 (O)



シャープネスとノイズ除去の同時処理 (P) I. 衣裳のみの色味調整 (Q)



ガラス越しにくすんだ写真を見たときの印象に (R)



モノクロ (カラー写真をモノクロ写真に) (S)



モノクロ (モノクロで撮ってカラー写真に) (T)



JPEGでもRAW現像できる (U)



能率良く処理する方法（同期・プリセット・バッチ処理）（V）



一部をモノクロにする方法・補正ブラシ（X）



同・段階フィルター（Y）



X.RAW現像を考えると撮影すると写真の幅が広がる（Z）



3.まとめ

RAW現像するには、専用のアプリ、パソコン、メモリーカード、ハードディスク等に等にお金が掛かるのは事実。これが唯一の欠点（データ量が大きいことは時として正しくない）。しかし、・・・

①処理が簡単とは言わないが、トーンカーブ、レイヤー、マスク等の難しい手法を覚える必要はないのでPhotoshopそのものを覚えるよりは遙かに容易。Photoshop習熟3年（でも怪しい）、RAW現像3日か（いきなりRAW現像で学べば）。

私はかつてはトーンカーブ命と思っていたが、RAW現像するようになってからはトーンカーブを使うことは皆無。これはもはや過去の技法かも。

②JPEG画像をトーンカーブ等の処理に手こずることを考えれば、RAW現像の方が手間いらず。また同期・プリセット・バッチ処理等の便利機能を併用すれば、Photoshopで画像処理するよりも遙かに短時間で行うことができる。困みに、踊りやアメフトの写真撮影で1回当たり2000～3000枚を撮影し、過去はその処理に3～4日掛かったが今では、現在では翌日には完了。

③今までの事例をご覧いただいでお分かりいただけるように、JPEGを画像処理するよりもRAW現像処理の方がより良い結果となることは明か。もしかしたら、失敗・撮り損ない写真がアートになり、コンテストの佳作程度が入選写真になるかもしれない。また、RAW現像すると何のためかを常に考えるようになるので、次の写真がもっと良くなるかもしれない。

ということで、RAW現像すること、即ちいい写真、いい写真家への近道なのです。

4.補足

- JPEG画像は必要=JPEGファイン+RAW撮影
マニュアルWBで色味の記憶、及びJPEGで当たりの場合も希にあるから。
- 本資料は、AdobePhotoshopCS5に添付されているRAW現像ソフトCameraRawを使用して作成。
- 電子ブック「いきなりRAW現像」の発売元 www.bookus.jp

